耐えて粘って初優勝

身長150cmの努力家

《九州女子学生選手権》

通算５アンダー　１３９

東海大九州２年・内藤　舞美

【写真は初優勝の内藤を祝福する東海大九州の女子部員】

　ここ数年、女子プロゴルフ界は身長１５０ｃｍがトレンドである。２年連続賞金女王の山下美夢有、米国で活躍する古江彩佳に西村優菜。体格差をものともせずゴルフ界を牽引する。今年の九州女子学生を制した内藤も１５０ｃｍ。「山下さんは目標です。戦っていると自分もいけるかも」と大きな励みになっている。

　プロとのレベルの違いはあるが、今回の内藤は強さを発揮した。初日を５バー

ディー、１ボギーの６８の首位スタート。ところが、優勝に一番近かったことが苦しさを生む。「優勝を意識しすぎてショットがブレました。パットでなんとかセーブできました」。１０番からのインスタート。１１番で内藤はカラーからの３パットボギーでバーディーを奪った２位・宮城杏（長崎国際大３年）と２ホール目で並ぶ。ショットが不安定で１８ホール中、半分の９ホールでパーオンできなかったものの、ボギーを２個に抑え、バーディーを３個。緊張の中でも耐えて粘るゴルフを展開した強さがあった。決着は宮城が１７ホール目の８番でＯＢを打ってつくことになる。

昨年、内藤は初めて日本女子学生選手権に出場した。結果は３オーバー２１９で１９位タイ。「全国大会は九州と違ってレベルが高く、勝負にならなかった。ドライバーも２０ヤードおかれた」。それからパワートレーニングに汗を流す。週に２度ジムに通い、今ではバーベルスクワットで８０ｋｇを上げるようになった。ドライバーの飛距離も２０ヤード伸びて２３０ヤードに。さらに、授業が午前１０時開始の場合などは、その前に練習場でボールを打ったりもする。ゴルフ中心の生活ではあるが、「学生だから、おろそかにできない」と勉学に励む。

大分県臼杵市の野津小４年からゴルフを始め、大分中から大分高に進んだ。中学に進学する頃にプロを意識し始めたという。「（日本女子学生では）目標は優勝です。いい成績を残せるように頑張りたい」と２度目の全国をにらんだ。

正確なショットで初V

２日間で1イーグル、12バーディー

《九州学生選手権》

通算１１アンダー　１３３

東海大九州３年・遠藤　崇真

【写真は初優勝の遠藤（前列中央）と東海大九州の男子部員。右端は堀田監督】

３位→２位→１位。３年生の遠藤は２０２２年、東海大九州に入学してから階段を１歩ずつ上がるように順位をアップし、今年、九州学生の頂点に立った。

「自分のゴルフの全部をぶつけられたことが自信になった。後半（のイン）は好感触だったし、手応えを感じました」と笑顔でラウンドを振り返った。初日１イーグル、７バーディー、２ボギーの６５で２位に３打差の好スタートを切った。最終日のアウトではバーディーチャンスにつけるものの「打てるラインじゃなくて」とスコアを伸ばせない。その間、同じ最終組の東海大九州の後輩・大柿天嵩（１年）が６番までに４バーディーで、２人の差は「３」に縮まっていた。「ネジを巻かないと。入れられたら、入れ返そう」。７番で３ｍのバーディーを決めると、インでは４バーディー（１ボギー）で、終わってみれば、２位に初日以上の４打差をつけてフィニッシュした。

２日間で１－グル、１２バーディー（３ボギー）。それはフェアウエーを外したのが初日３ホール、最終日２ホールだけという安定したドライバーショットにある。平均飛距離は２８０～２９０ヤード。「軽く振って高校時代の距離が出るようになった。フェアウエーにあるので楽にセカンドが打てた」。ただ、体調はまだ万全ではない。と言うのも、昨年暮れ、腰のヘルニアに悩まされ、ドクターストップがかかったほど。クラブを振り始めたのは今年３月中旬からだ。この間、強化が可能な上半身を腕立て伏せなどで鍛えた。これらの筋力アップが安定したショットにつながったようだ。

クラブは父・真一朗さんの影響で４歳から握り始める。鹿児島市内の清和小、東谷山中、父親の転勤で薩摩川内市内の川内中央中に転校した後、樟南高に進学した。ゴルフのほか水泳が得意で、川内中央中時代は「市内で一番速い子より速かった」と胸を張る。好きなプロゴルファーはタイガー・ウッズ。「ゴルフがうまいのは当たり前ですが、ファンに見せるプレーをして、ゴルフの魅力を伝えられる選手です」と憧れる。

日本学生選手権出場は２年連続２度目。昨年は最終日に９アンダー６３のベストスコアを出しながらも、３日目の７４が響いて通算１１アンダー２７７で１１位タイ。「最低でも５位以内に入りたい。目指すは優勝です」と今大会マークした２日間での自己ベスト１１アンダーを引っ提げて大舞台に挑む。

《大村湾CCニューコース》